

平成29年度 実施事業の概要

施設名： 国立妙高青少年自然の家

教育事業名：「ボランティア育成プロジェクト」

期間：① 5月14日(日)、② 6月24日(土)～25日(日)、③ 8月26日(土)～27日(日)
④ 11月3日(金)～4日(土)、⑤ 12月9日(土)～10日(日)、⑥ 3月10日(土)～11日(日)

対象及び参加人数：① 19名、② 20名、③ 12名、④ 8名、⑤ 11名、⑥ 21名

目的：

国立妙高青少年自然の家で活動する大学生ボランティアの自己成長の機会を多角的に提供することで、地域社会と連携した新たなボランティア育成の仕組みを作り、地域社会を発展させていくことのできる人材を育成する。

また、年間を通じて自主企画事業の立案及び運営をサポートすることで、社会を生き抜く力を磨くとともに、創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験の機会を提供する。

事業概要：

①はボランティア養成研修の準備として、野外炊事の安全管理講習と国立妙高青少年自然の家のボランティアについて共通理解を図った。

②、③は「MYOKO Thanks Project (感謝祭ボランティア企画)」として、10月に実施の感謝祭で出店したブースの企画立案を行った。

④、⑤については、「はね馬キャンプ! in 妙高・企画運営委員会」として、1月に実施した小学生向けキャンプの企画立案を行った。

⑥は「平成29年度のまとめと次年度に向けて」として、各ボランティアの取組を発表し、意見交換を行った。また、次年度に向けて「ボランティア」についてディスカッションし、ボランティアについて理解を深めた。

成果：

①について（ボランティア養成研修を向けた研修）

①の研修を受けたボランティアが、翌週のボランティア養成研修や妙高フレンドスクール等で、先輩ボランティアとして活動することで、新入生の意欲が高まり、今年度も73名の新規ボランティアを獲得することができた。

②、③について（MYOKO Thanks Project）

日帰りブースの運営という、宿泊に比べて入門となる体験活動プログラムの企画立案を行った。妙高体験学習法やプログラムデザインの研修をとおして、企画を進め「森のわくわく☆タイケンジャー」という企画を成功させた。

④、⑤について（はね馬キャンプ! in 妙高・企画運営委員会）

MYOKO Thanks Projectからステップアップし、冬の宿泊型子供向けキャンプの企画立案を行った。主に1、2年生が企画立案の中核を担い、事故なく事業を成功させた。企画課題は、活動プログラムやふりかえり動画の作成を中心に設定し、広報や会計処理等の渉外的な分担は自然の家職員が担うことで、参加者にとって適切なステップアップの機会となった。

⑥について（平成29年度のまとめと次年度に向けて）

平成29年度の取組について6名のボランティアが報告した。報告内容は、4年間のボランティアの取組について、企画立案をしてみて感じた体調管理の重要性、ボランティアミックスキャンプの参加報告など多岐に渡り、活発な質問が飛び交い、充実した内容となった。

課題：

年間を通じてのボランティアの計画的育成について、本年度は2年目の取組であった。前年度に加え、子供向けキャンプの企画体験を取り入れることで、系統立てたボランティア育成の仕組みとして確立できた。次年度は、国立妙高青少年自然の家における、ボランティア育成スタンダードモデル(妙高モデル)として、関連事業の関係性やボランティアの成長の機会などを精査し、青少年教育施設のモデルとなるボランティア育成の仕組みを構築する予定である。

ボランティア育成プロジェクト①の様子



火起こしについての研修



講師：ボランティアコーディネーター及川

ボランティア育成プロジェクト②の様子



KJ法でアイデアを分類



屋外に出て本物体験

ボランティア育成プロジェクト③の様子



野性の蛇を捕まえた



頭を突き合わせて企画活動

ボランティア育成プロジェクト④の様子



仲間づくりの体験に挑戦

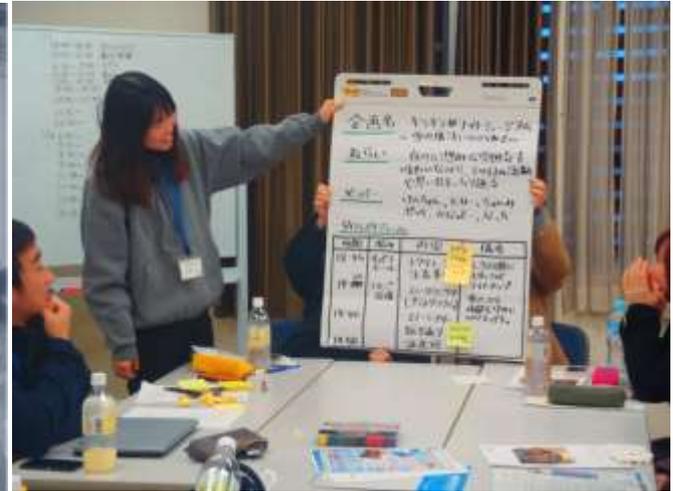


冬のキャンプに向けた話し合い

ボランティア育成プロジェクト⑤の様子



まずは浴びるほどの雪を体験



実体験を元にして企画立案

ボランティア育成プロジェクト⑥の様子



これまでのボランティア体験談を報告



ボランティアについて理解を深める